

薬物依存症者を抱える家族の会 NPO 法人横浜ひまわり家族会

第2回「薬物依存症者と家族 フォーラム」

薬物依存症は病気です～家族が笑顔を取り戻すために～

薬物依存症は発症から回復まで10年も20年もかかる「生涯治療を要する病」です。

依存症は孤立の病とも言われています。本人の孤立は家族に伝染し気づくと地域の中でも親族の中でも孤立していきます。孤立は本人に取っても家族に取っても回復の妨げとなります。回復に必要なのは本人や家族を孤立させない地域作りや多様な支援がかかせません。

今回は近藤先生には「長い回復への道のりの中で家族はどう対応し自身も回復していくか」を講演していただきます。また松本先生にはコホート調査（追跡調査）報告と孤立を防ぐ多様なケアについて。続いてトークセッションでは「RECOVERY BRIDGE もっと多くの場所で多様な支援を！」テーマにそれぞれの機関での取り組みや課題を話し合い、問題の共有を図り、本人や家族を孤立させないために地域の中でたくさんのつながりを広げていければと考えます。

松本俊彦先生からのメッセージ

VOICE BRIDGES PROJECT

「御用聞き」プロジェクト

「刑の一部執行猶予制度が始まり、刑務所から通常より早く出所し、保護観察所の監督下で地域内処遇を受ける保護観察対象者が増えつつあります。これにより、以前よりは司法機関から地域へのつながりは促進されますが、一番大事なのは、保護観察修了後に地域の社会資源につながることです。そこで、この「保護観察から地域支援へのつながり」を少しでもよいものとするために、現在、薬物犯罪による保護観察対象者コホート調査（追跡調査）の一環として、地域の精神保健福祉センターから保護観察対象者に定期的な電話での声かけ、相談すべき問題に関する「御用聞き」をするプロジェクトを始めています」

◆ 松本 俊彦（まつもと・としひこ）

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

1993年、佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院精神科助手などを経て、2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所 司法精神医学研究部室長に就任。以後、同研究所 自殺予防総合対策センター副センター長などを歴任し、2015年より現職。日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事。

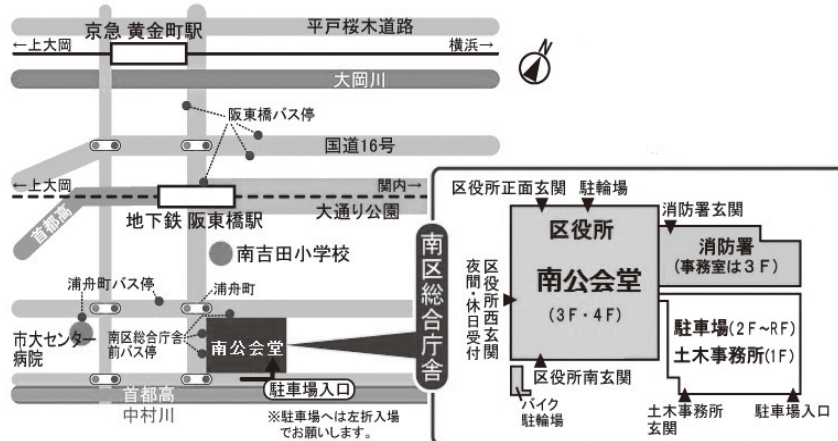
◆ 近藤 あゆみ（こんどう・あゆみ）

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長。日本アルコール・アディクション医学会理事。精神保健福祉士、保健学博士。依存症の家族支援が専門。

※プログラムは都合により多少変更する場合があります。
最新情報はホームページをごらんください。

◆ 会場案内／南公会堂（南区総合庁舎 3 階）・横浜市南区浦舟町 2-33 Tel.045-341-1261

- ・横浜市営地下鉄ブルーライン「阪東橋」駅下車、出口 1B より徒歩 8 分
- ・京浜急行「黄金町」駅より徒歩 14 分
- ・バス「阪東橋」徒歩 8 分
- ・バス「浦舟町」徒歩 2 分
- ・バス「南区総合庁舎前」は系統により平日のみ運行や、上り線は停車しないものがあります。（「浦舟町」で下車してください。）
- ・来場は公共交通機関をご利用お願い致します。



お問い合わせ／横浜ひまわり家族会 事務局 045-475-2063（木曜 10:00～16:00） 090-3478-4998(中原)
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 3 階
／ 横浜ダルク・ケア・センター 045-731-8666 〒232-0017 横浜市南区宿町 2-44-5
<http://himawari.yokohama/>